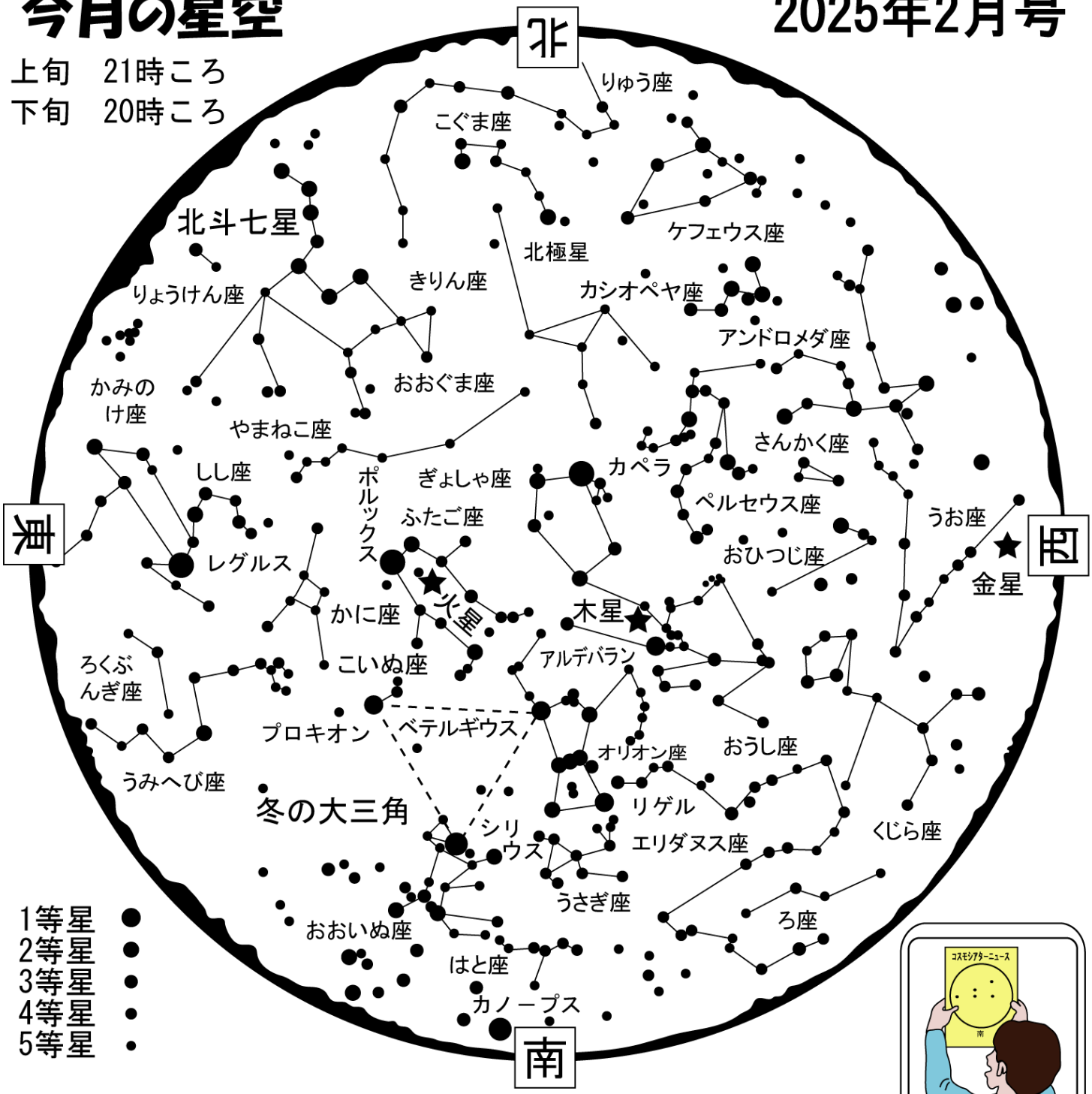
コスモシアターニュース

今月の星空

2025年2月号

上旬　21時ころ
下旬　20時ころ



自分の向いている方向を下にして、見てください

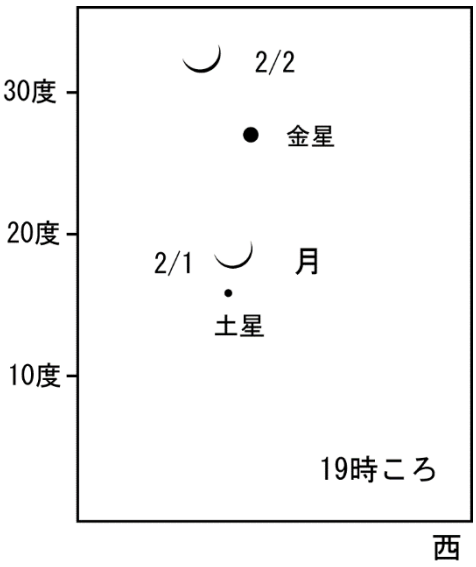
惑星の動き

水星：見かけ上太陽に近く、肉眼では見つけるのが難しい。
金星：夕方、西の空に見えます。明るさは-4.5等星です。2日に、月と並んで見えます。
火星：夜の初め、東から南東の空に見えます。明るさは-1～0等星です。7日に月と並んで見えます。
木星：夜の初め、南から南西の空に見えます。明るさは-3等星です。9日に、月と並んで見えます。
土星：上旬までの夕方、西の低い空に見えます。明るさは1等星です。1日に、月と並んで見えます。

今月の月の満ち欠け

上弦：5日(水)　満月：12日(水)　下弦：21日(金)　新月：28日(金)

1日(土)～2日(日)、夕方の空で、月と土星、金星、が並んで輝く



1日(土)の19時ころ、西の空に細い月が輝いています。そして、この月の少し下を見ると、やや明るい星が見えます。この星が土星です。また、月の上を見ると、たいへん明るい星が見えます。こちらが、金星です。金星は、星の中で一番明るく、大変目立つ存在です。

さて、1日は土星に近い月ですが、2日(日)になると、金星の上側に移動します。2日の方が、月と金星の間隔が狭く、月と金星がぴったり並んだ感じに見えるでしょう。なお、月と金星の接近だけで見ると、夕暮れが残っている、18時すぎが美しく感じます。ただし、土星が暗いので、土星までの接近を見るには、19時ころに観察するのがいいでしょう。また、土星が20時ころになると高さが低くなるので、見つけにくくなります。19時ころまでに、観察してください。

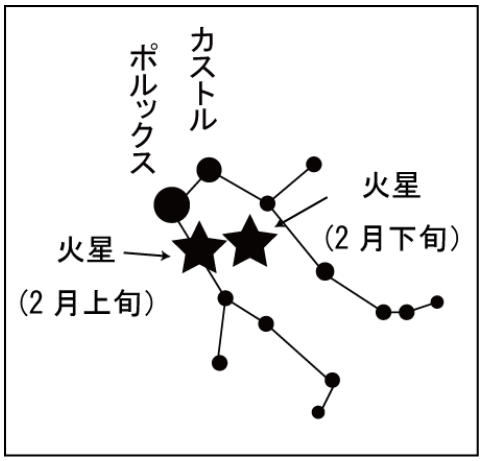
7日(金)、南の空で、月と木星が並んで輝く

7日(金)の20時ころ、南の空を見上げると、半月より少し太めの明るい月が輝いています。そして、この月のすぐ右下を見ると、大変明るい星があるのが分かります。この明るい星が、木星です。肉眼でよく見えますので、ぜひご覧ください。なお、木星のすぐ下に、オレンジ色の星も見えています。木星より暗いのですが、1等星なので、肉眼でもよく見えます。こちらの星が、おうし座のアルデバランです。木星との色の違いがはっきりしているので、目につくでしょう。

9日(日)、東の空で、月と火星が並んで輝く

月と木星の接近が見られた2日後、9日(月)の19時ころ、東の空に月が見えます。そして、この月のすぐ下を見ると、オレンジ色の明るい星が見えます。この星が火星です。木星ほどは明るくないのですが、1等星より明るいので、目立つでしょう。ところで、火星のすぐ左側に、上下に二つの星が見えてきます。上側が、ふたご座のカストル、下側がポルックスです。火星と三角形に並んでいますので、ぜひ探してみてください。

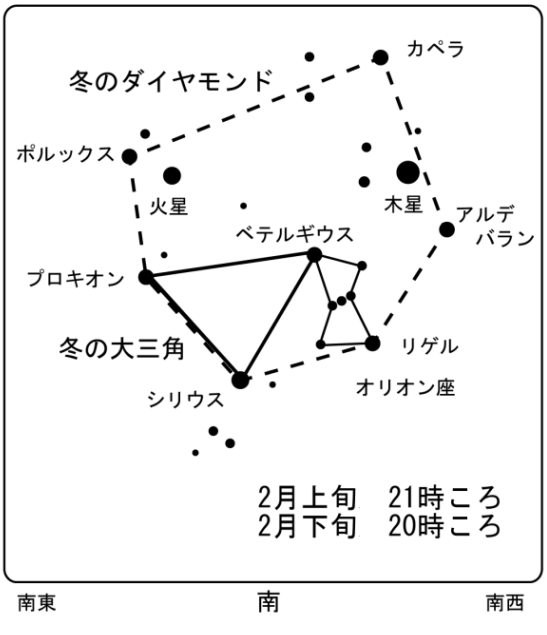
火星のあるふたご座



ふたご座は、頭の上近くに見え、今月から来月が見ごろの星座です。この星座には、カストルとポルックスという明るい星が仲良く並び、同じくらいの明るさのため、この二つをふたご星と呼ぶこともあります。今月は、このふたご星の近くに火星が加わり、三つ子星のように見えます。

火星の明るさは、カストル、ポルックスより明るく、オレンジ色がはっきりした明るい星ですので、すぐに分かると思います。2月上旬、火星は、ポルックスの近くに見えます。ただし、日を追うごとに少しずつ場所を変えていきます。2月の下旬には、カストルとポルックスとともに、細長い三角形を作るようになります。星座の中を移動していく様子が分かりますので、間隔をおいて観察してみてください。なお、3月に入ると、火星の動きが止まり、後半には再び動き始め、カストル、ポルックスと直線状に並びが分かります。今月だけでなく、来月まで観察するといいでしょう。

★冬の明るい星を見よう



冬の夜空は、右のように冬の大三角や冬のダイヤモンドといった分かりやすい星の並びがあります。これらの中で、最も明るいのはシリウスです。プロキオンも明るく、冬の大三角は大変目立つ存在となるはずです。ただ、夕方はまだ高さが低く、南の空高く見えるのは、20時から21時ころになります。

冬のダイヤモンドは冬の大六角とも呼ばれ、大変大きく広がっています。また、カペラは頭の真上を越してやや北の空よりに、ポルックスはほぼ頭の真上になります。右の図は、南の空を眺めたときの星空で、上が北、右が西、左が東となっています。

ところで、天気がたいへんいい時に限って、カノープスが見えることがあります。ただし、見える時間が短いのと、高さが低いので、なかなか見ることができません。このため、見えるといいことが起こる、長生きができる星ともいわれています。地平線付近まで晴れたときに、南側の山が見るような見晴らしがいいところで探してみてください。